



11・12月講座紹介



申込
期間

小・中・義務教育学校 : 9/4(月)~9/15(金)
府立学校 : 9/4(月)~9/22(金)

開始
時間

PM 13時30分

会場

セ センター 北 北部研修所
所 各所属校(園) 外 外部会場

指標
観点

人権 人権 学習 学習指導 生指 生徒指導
マネ マネジメント チーム チーム学校

人権 No.353



11月21日(火) PM

人権教育講座Ⅱ～外国にルーツをもつ子どもへの支援～

講師 京都教育大学 教授 浜田 麻里

会場 所

外国にルーツをもつ児童生徒に係る人権課題の現状や指導・支援の在り方について理解を深め、的確に実践できる指導力の向上を図ります。

※事務職員の指定講座は番号「955」で申込みしてください。

学習 No.435



11月21日(火) PM

新時代の学びを支えるICT教育講座Ⅱ

講師 茨城大学 准教授 小林 祐紀

会場 所

研究協力校の実践発表を通して、個別最適な学びと協働的な学びを実現するための授業展開と効果的なICT活用の在り方について理解を深め、指導力の向上を図ります。



学習 No.417



12月1日(金) PM

中高美術講座～映像メディア表現～

講師 京都市立芸術大学 教授 石橋 義正

会場 セ

主演者がすべてマネキンである映像作品「オー！マイキー」の監督で知られる石橋義正先生から、映像メディア表現の可能性、意図と工夫などを学び、これからの映像メディア表現の発想・構想、鑑賞の授業づくりのヒントを得ます。

学習 No.423



12月5日(火) PM

中高外国語科教育講座Ⅱ～言語活動をデザインする～

講師 群馬大学 講師 津久井 貴之

会場 所

技能統合型の言語活動をデザイン・修正・カスタマイズする方法を学びます。また、言語活動を行うための「支援」に繋がる教師と生徒のやり取りやICT活用について方策を考えます。



生指 No.454



11月1日～12月1日
12月1日(金) PM

キャリア教育講座～学びを生かす実践～

講師 国立教育政策研究所教育課程研究センター
教育課程調査官

会場 所

東北福祉大学 教授 長田 徹

各校の教育目標に応じた「変化に対応できる力」、「学び続ける力」を育てていくための教育活動について考えます。

生指 No.465



11月6日(月) PM

教育相談〈上級〉講座Ⅰ～思春期の子どもたちのこころーネットの問題がどう影響しているのか～【領域①】

講師 島根大学 教授 岩宮 恵子

会場 セ

思春期の子どもたちのこころにインターネットがどのように影響しているのか、事例を通して理解を深め、関わりについて考えます。



生指 No.457



11月24日(金) PM

多様性を認め合える教科指導と学級経営講座
～個別最適な学びと協働的な学びの実現～

講師 関西学院初等部 副校長 村田 辰明

会場 所

通常の学級における社会科授業のユニバーサルデザインについて学びを深め、教科教育や学級経営に特別支援教育の視点を取り入れることについて考えます。

生指 No.463



11月30日(木) PM

教育相談〈中級〉講座Ⅱ

～医療の視点から不登校を考える～【領域②】

講師 医療法人社団 ながうちこころのクリニック
理事長・院長 長内 清行

会場 北

児童生徒のこころと身体の健康や不登校について医療の視点から理解を深め、対応や医療との連携について考えます。

マネ No.505



11月20日～12月25日

校内研修の充実講座Ⅰ

～ミドルからはじめるカリキュラム・マネジメントの実践～

講師 奈良教育大学 教授 赤沢 早人

会場 所

学校教育の改善・充実を図る「カリキュラム・マネジメント」の実現や目指す児童生徒の姿に迫るため、組織的に推進する視点や方策について学びます。

マネ No.511



11月27日(月) PM

最新教育動向講座Ⅱ

講師 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇

会場 所 又は 外 みやづ歴史の館

最新の教育動向や研究成果から学校が組織的に機能し、新たな課題にも機動的に対応できる学校運営について考えます。さらに、自校で取り組みたい具体的な方法や行動を考えます。

チーム No.554



11月17日(金) PM

企業から学ぶ多様な顧客対応講座

～信頼関係の構築に向けて～(企業連携)

会場 所

企業の顧客対応や人材育成、マネジメントの考え方を学び、学校現場への生かし方について考えます。さらに、グループワークを通して、信頼関係の構築に向けた具体的な方策を考えます。



学校DX研修

11月実施コース：中級、上級

研修形態：オンライン

※実施後、対象講座のみオンデマンド動画として視聴可能

実施時間：16:00～16:50 ※一部異なります。

対象・講座数：市町(組合)立学校 7講座
府立学校 10講座

学校DX研修の概要については、右の二次元コードから御確認ください。



「主体的な学び」をうながす教師のファシリテーション能力

講師として、一般社団法人日本青少年育成協会 主席研究員の**大村伸介氏**を迎え、「授業に生かすファシリテーション講座」を実施しました。授業を円滑に進めるための環境づくりや、より効果的なグループワークを進めるポイント等、教師の働きかけが児童生徒に与える影響を意識した授業デザインの視点を御講義いただきました。

受講者は、講義と多くの演習を通して、段階に応じた児童生徒との関わり方を考慮しながら思考を広げ、深め、知識欲を引き出す主体的な学びを支援するためのファシリテーションの考え方とスキルを学びました。その一例を紹介します。

活動が円滑にできるよう支援し、舵取りをすることです。



演習の様子



ファシリテーションをするときのポイントって？

環境づくり

▶ ルールの設定

授業におけるルールを設定することで、安心して活動できる環境をつくりまします。

▶ 合意形成

教師が一方的に決定するのではなく、児童生徒と合意の上で決定することが大切です。

グループワーク

▶ スモールステップ

まずはペアワークから入り、その後グループに移行することで、話すことが苦手な児童生徒も発言しやすくなります。

▶ 役割の決定

進行役や発表役、時間管理役等の役割を決めることにより、主体性が発揮されます。

相互作用

▶ 活動の共有

個人やグループの活動を拾い上げて共有することで、他の活動に刺激を与え、教室全体で協働的な活動の促進が期待できます。



より効果的に実践したい！

○ 行動をうながす伝え方（ゴールデンサークル理論）

伝える順序を工夫しましょう！そうすれば、人が「やりたい」と思う感情や直感に訴えかけることができ、より主体的な行動をうながしやすくなります。

WHY

「なぜ」するのか

HOW

「どのように」するのか

WHAT

「何を」するのか

サイモン・シネック氏（マーケティングコンサルタント）がTED Talksでのプレゼンテーションで提唱した理論です。

TED, (2010, May 5). サイモン シネック: 優れたリーダーはどうやって行動を促すか [VIDEO]. YouTube. <https://youtu.be/qp0HIF3SfI4>



受講者の声



子どもたちに声をかけるときや授業で考えさせるときなど、細かな具体的な場面で話してくださったので、とても分かりやすかった。



生徒が場面に合わせて「良い学習者」になれるよう、支援していきたい。教員の引き出しの1つとしてファシリテーションスキルを学べて本当に良かった。

No.351 スクールソーシャルワーク講座（7月27日実施）

児童生徒を取り巻く困難や課題を解決するために

今、学校では、いじめ、虐待、不登校、貧困など、児童生徒を取り巻く様々な困難や課題を解決するために、専門職や専門機関と連携した取組が求められています。本講座ではその一つとして「ソーシャルワーク」について学ぶとともに、学校に配置されているスクールソーシャルワーカー（SSW）との連携・活用について、まなび・生活アドバイザー（京都府SSW）のスーパーバイザーである長澤哲也氏を迎え、御講義いただきました。

今号では、御講義いただいた内容をもとに、ソーシャルワークの考え方による困難や課題をもつ児童生徒のアプローチとSSWの役割について紹介します。



ソーシャルワークとは・・・

「人々が人生で出会う様々な困難を乗り越えていけるよう、そしてより充実した人生を実現できるようにサポートする働き」のことです。

Q1 どんな考え方や視点を大切に困難や課題を抱える児童生徒を支援すればよいですか？

児童生徒の個人と環境との関わりのアセスメントをもとに、主体性や自分の本来もっている力を活かして自ら動き出せるように支援します。

児童生徒をアセスメントする視点

本人に不足して困っていることは何か

- ・衣食住
- ・安全安心な環境
- ・友達関係
- ・学習
- ・親との愛着
- 等

本人や関係者、環境の強みや力は何か

- ・信頼できる大人の存在
- ・本人の学力
- ・友達との繋がり
- 等

生じている危機的状況は何か

- ・健康状態の悪化
- ・学習機会の喪失
- ・家庭内の危機
- ・地域からの孤立
- ・経済状況
- ・意欲の低下
- 等

Q2 SSWはどのような支援を行いますか？

ソーシャルワークの価値基盤と知識・技能を用いて児童生徒や保護者、教職員の営みをより効果的なものにし、学校が持つ本来の機能が十分に発揮されるよう支援を行います。

学校とともに、困難を抱える児童生徒に起きている状況の分析

困難を抱える児童生徒に関わる人々に対する支援

本人・家族・関係機関とともに様々な対象に働きかけながら効果的な連携の支援

Q3 SSWと連携・協働する際に大切にすべきことは何ですか？

学校での児童生徒を支援するシステム（生徒指導、特別支援教育、教育相談など）のメンバーとして位置付け、教職員とSSWがそれぞれの専門性を発揮できるようにすることです。

※Q&Aは本講座の内容の一部を紙面に紹介できる範囲で作成したものです。

受講者の声



「学校がSSWを主体的に効果的に活用する」この学校がという視点が大事だと思った。実際に動くのは学校であり、教職員である。SSWが専門的な視点で意見を言っていただけなのはありがたい。同じ目標をもって取り組みたい。